

# WT5000/WT1800(E)/WT1600/WT3000(E)/WT500/WT300(E)用サンプルプログラムの使い方

Microsoft Visual Basic 6.0, Microsoft Visual C++ 6.0,  
VisualStudio2005/2008/2010/2013/2015/2017

(Microsoft Visual Basic.Net, Microsoft Visual C++, Microsoft Visual C#)

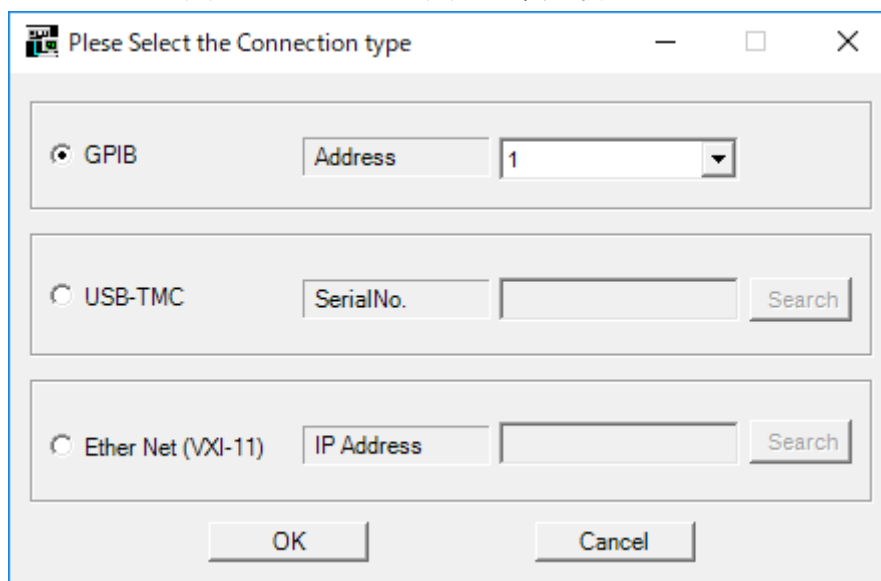
\* WT1600はVisual Basic.NET, Visual C# はありません。

\* WT5000はVisual Studio2010/2013/2015/2017のみ対応

## 手順

1. Microsoft Visual C++ 6.0製品(以下VC)または、Microsoft Visual Basic 6.0製品(以下VB),またはVisual Studio製品(以下VS)をインストールされているPCをご用意ください。
2. ホームページに掲載されているサンプルプログラムをダウンロードして解凍します。  
VSをご使用の場合、サンプルプログラムとVSのバージョンを合わせてください。
3. VCの場合は拡張子dsw , VBの場合は拡張子vbp , VSの場合は拡張子slnをダブルクリックしてソフトウェアを起動します。
4. VCの場合は！にて、VBまたはVSの場合は『右向きの三角』にてプログラムを開始します。以下のウインドウが表示されます。

<WT5000/WT1800(E)/WT500/WT300(E)での表示例>



※WT5000 /WT1800(E)/WT500/WT300(E)のサンプルプログラムには次の機能があります。

開始時に接続情報ファイルがある場合、ファイルから接続情報を読み込み、各項目に設定した状態で通信設定画面を表示します。

接続情報ファイルがない場合、項目は設定されません。

接続情報ファイルは、OKボタンを押して測定器との接続が成功した時点で作成/更新されます。

また、Ethernet-VXI11、USB-TMCの右のボタンは、物理的にPCと接続状態にある測定器を検索し、ご使用のサンプルプログラム対応の測定器であるか判断して、設定入力部に結果を表示します。

測定器が複数台見つかった場合は設定入力部がコンボボックスとなり、結果をリストから選択できるようになります。

<WT3000(E)での表示例>

Please Select the Connection type

GPIB Address 1

Ether Net IP Address Username anonymous Password

USB Address 1

RS232 Port COM1 Baud Rate 1200 Format 8-NO-1 Handshake CTS-RTS Terminator LF

OK Cancel

※本プログラムは横河製通信ライブラリ“TMCTL”を使用しています。次のURLから“TMCTL”をダウンロードしてtmctl readmeをお読みください<http://www.yokogawa.com/jp-yimi/tm/F-SOFT/DLsoft/tmctl.htm>

通信は以下の中から選択します。

※WT1600はUSB機能がありません。

※WT5000/WT1800(E)/WT500はRS232機能がありません。

- GPIB ... 通信アドレス1～30の中から選択します。  
※National Instruments社製GPIBカードがインストールされている必要があります。
- Ethernet ... IPアドレス, ユーザー名, パスワードを設定します。  
初期状態では, ユーザー名はanonymousでありパスワードは設定されていません。  
※WT5000/WT1800(E)/WT500/WT300(E)はIPアドレスのみ設定してください。
- RS232 ... ポート, ボーレート, フォーマット, ハンドシェーク, ターミネーターを設定します。
- USB ... 通信アドレス1～127から選択します。  
※WT5000/WT1800(E)/WT500/WT300(E)はシリアルを入力してください。  
また, USBドライバ(YTUSB/YKMUSB)をインストールする必要があります。  
<http://www.yokogawa.com/jp-yimi/tm/F-SOFT/DLsoft/usb.htm>

選択後, OKキーを押して設定画面に進みます。

注意)このサンプルは, フリーソフトウェアです。したがって, 本ソフトウェアはサポート/保証はありません。

# 画面の説明 (WT3000(E))

データ更新レートを設定し、SETを押します。

レンジを設定するエレメントを選択します。

電圧レンジを設定し、SETを押します。また、電流は、直接入力レンジあるいは外部入力レンジを設定し、SETを押します。

データ取得するデータ数量を選択します。本サンプルソフトでは最大10項目までの設定に制限しています。

取得する測定データの形式(ASCII/BINARY)を切り替えます。

測定データを読み込むためのファンクション、エレメント、次数を設定します。

測定データを1回取得します。

測定データをデータ更新レートごとに連続してデータ取得します。

設定した時間間隔で連続してデータ取得します。

入力したファイル名でデータ保存できます。

設定されているアイテム情報を読み込みます。

データ更新レートを設定し、SETを押します。

ヘッダーのON/OFFの選択ができます。

送信コマンドの省略のON/OFFの選択ができます。

本設定画面にないパラメータ(スケールリングなど)を直接コマンドラインを用いて設定できます。コマンドを入力後、SENDボタンによりデータ送信できます。

設定のエラー情報などを取得できます。

コマンドラインの記述内容をクリアします。

送信コマンドモニターです。たとえば、電圧、電流レンジの設定をすると、実際に送信されるコマンドがここに表示されるので、送信コマンドの確認ができます。

コマンドラインの記述内容をクリアします。

受信コマンドモニターです。問い合わせコマンドに対して、WT製品が返信したデータなどが表示されます。

プログラム画面(本画面)を終了します。

WT3000本体の設定をリセットします。

画面上で表示しているアイテムを、WTに送り設定します。

設定されているアイテム情報を読み込みます。

**注意) サンプルプログラムはお断り無く変更する場合があります。**

注意) サンプルプログラムはお断り無く変更する場合があります。